

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671300154		
法人名	有限会社介護サービス看護婦家政婦紹介所		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町宮倉原ノ内40番地		
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念にもある“ゆったり一緒に楽しくゆたかに”を基本に、職員は利用者様に寄り添い、できない事を助け合いながら個々のペースで生活できるように心がけている。1ユニットという事もあり家庭的な雰囲気の中で、利用者様の思いが満足できるように支援に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年3月18日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、幹線道路から少し外れた、住宅街に位置している。“ゆったり一緒に楽しくゆたかに”という理念を掲げ、家庭的な雰囲気のなかで、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、支援に取り組んでいる。住宅街に位置しているため、近隣住民との交流が盛んで、事業所内で認知症啓発に向けたオレンジカフェを開催したり、地域の自主防災会に参加したりするなど、地域密着型サービス事業所としての役割を果たすことができるよう取り組んでいる。事業所内での防災訓練にも力を入れ、日中・夜間を想定した避難経路の確認などに取り組んでいる。利用者家族との関係も大切に捉え、日常的な外出支援や餅つきなどの事業所行事の際に、協力を得ている。また、協力医療機関とも連携し、定期的な往診や健康診断、口腔ケアなど、利用者の健康管理のため協力体制を整備している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は簡単な言葉で表現しており、職員全員が共有しやすくしている。個々がその言葉を理解し利用者様に寄り添った対応を心掛けている。	事業所では、“ゆったり一緒に楽しく豊かに”という、独自の理念を掲げている。研修等を通じて、職員間での理念の共有化を図っている。職員は、理念に基づき、利用者一人ひとりに寄りそった支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが持てるようオレンジカフェを開催したり、餅つきやホームの行事に参加してもらえる機会を設けている。	事業所では、近隣住民から野菜等の差し入れを受けたり、夏祭りやオレンジカフェ等の催しに地域住民の参加を得たりするなど、日頃から地域と交流している。また、地域で開催される会合等にも参加して、顔なじみの関係を築くよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方等事業所の行事に参加してもらい、できるだけ認知症の人との交流の場を設け、理解を深めてもらえるようにしたり、職員とも気楽に話せる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加されている方々はとて熱心で、ホームの考えを良く受け入れてくださり、その為の意見やアドバイスを受けサービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、市の担当者、生活支援員、民生委員、地域包括支援センター職員などの出席を得ている。会議では、利用者の状況のほか、研修や催事の状況を報告し、出席者から意見を得るなど、積極的な情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に運営推進会議に参加してもらいたい為に、開催時間を考慮したり、相談事があれば電話や市へ訪問し話をするようにしている。	事業所では、定期的に、市の担当窓口を訪問し、事業所の取り組み等について報告している。その際、運営方針や支援内容などについて、アドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は何が身体拘束になるかを理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、身体拘束に関する勉強会を開催したり、外部の研修会に参加したりして、身体拘束にあたる具体的な行為などについて、理解し、共有化を図っている。日中は玄関を開放し、職員間で声かけをしつつ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回は身体拘束や高齢者虐待防止について学習会を設け、職員間で話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて相談している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には時間をかけて説明を行い、改定時には文書で報告している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係が作れるよう、家族面会時や介護計画作成時に意見を聞く機会を設け、できるだけ話をするようにしている。	職員は、家族の来訪時や電話等で連絡をした際に、利用者の体調や生活状況を伝え、意見や要望等をききとっている。出された意見等について、全職員で話しあい、運営面に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気づきを大切にしており、何でも話せる関係にあり、皆で話し合っ可能な事は反映させている。	管理者は、日頃から、職員が意見や要望を出しやすい関係づくりに努めている。出された意見等を検討し、運営面に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況に応じて勤務できるようにしている。又資格手当等働きに応じて給料設定をしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は開示し、希望の研修には進んで参加してもらっている。又管理者が是非受けてもらいたい研修には人選し受講してもらっている。参加後は報告し、皆で共有できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のケアマネネットワークの会議に参加したりGH協会で知り合った他の事業所の方との情報交換等必要に応じて行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にも見学に来てもらい、馴染みやすい雰囲気づくりに心掛けコミュニケーションが図れるよう対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学にきてもらい、困っている事等話を傾聴しホームでどんな対応ができるか伝えたり、一緒に考えながら支援できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適応するサービスを見極め、本人に合ったサービスを一緒に考えていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で残存機能を生かし、できる事は一緒にし、できない事を助けながら生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は入所させたら面会も少なくなりがちなので今までの関係が持続できるよういつでも立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。又家族との外出支援も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族とも協力し可能な限り実現できるように支援している。	事業所では、日頃の支援のなかで、利用者の馴染みの場所や人との関係について、把握するよう努めている。家族等の協力を得て、外出や墓参り、買い物に行くなど、関係継続に向けて、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の状態を把握し、気の合う、合わないの関係を知り円滑にコミュニケーションが図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も入院の場合はお見舞いに行ったり必要に応じて相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関りの中で本人の思いや希望を把握するようにしている。	職員は、日頃の支援のなかで、利用者の思いや希望等をききとっている。ききとった情報について、職員間で共有化を図り、利用者一人ひとりの希望にそった生活に向けて、支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族共に話す機会を多くし、生活歴や馴染みの暮らし方が発揮できるよう支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、残存の力を引き出し能動的に過ごせるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わる人から話を聞く機会を持ち、アセスメントを充分に行い本人がより良く暮らせるケアができるよう考えて作成している。	事業所では、利用者一人ひとりのより良い生活に向けて、本人や家族等から聞き取りを行い、介護計画書を作成している。定期的にモニタリングを行ったり、利用者の心身の状況にあわせて、随時見直したりして、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は昼夜に分け簡潔に記録し、変化が見られた場合は詳しく記録し、みんなで共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてボランティアの受け入れ等情報収集を行い取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報収集を行い、地域交流を兼ねて参加できるものには進んで参加するよう心掛けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医を最優先し受診できるようにしている。特に希望がない場合はホームDrを紹介する。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関と連携し、定期的な往診なども実施している。専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24h連絡が取れるようになっており日常的に利用者様の状態も把握してお互いが相談しながら支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供表を提出している。入院中は状態確認の為もありお見舞いに行き情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時に終末期の意向を現段階での確認をし、その時期が近づいて来た時には話し合う機会を設け再度意向を確認するようにしている。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。心身の状況に応じて、家族等の意向を確認しつつ、協力医療機関等と話しあい、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置しており、急変時に備えている。応急手当の研修は一度は受けており、資料等もすぐ見れるようにしてある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自主防災会の会員にもなっており、地域ぐるみの訓練に参加している。運営推進会議の中でも防災についての話し合いも多く協力が得られるようにしている。	事業所では、法定に基づき、避難訓練を実施している。日中と夜間を想定し、避難経路の確認や連絡体制の見直しを行っている。また、地域の自主防災会にも参加するなど、地域との協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った支援を心掛け、羞恥心やプライドを傷つけないように配慮している。	事業所では、利用者一人ひとりの人格を尊重し、支援に取り組んでいる。トイレへの誘導や入浴の際には、本人の尊厳やプライバシーに配慮した声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で意思決定する場を度々に設けるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた生活リズムで過ごせるようにしている。毎日個々に何がしたいか聞き出せるように話しかけ、希望に沿った支援ができるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、季節や気温に合った服装ができるようアドバイスをしたり、化粧品等の補充等も支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか？等の話し合いを持ちかけたり材料を見て献立を考えたり相談をしてメニューを決め、個々のできる事を手伝ってもらい一緒に準備している。	食事は、事業所で調理したものを提供している。菜園で収穫した野菜や近隣住民からの差し入れの野菜を活用することもある。利用者一人ひとりの状態にあわせて、皮むきや配膳など、役割を担ってもらっている。季節の食材や手作りおやつなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を記録し、足りない方には決められた時間だけでなく、回数を分けて摂取してもらったり、状態に合わせて栄養補助剤を利用するようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。拒否する方もいるが一日のうちで1回は丁寧にするよう支援している。必要に応じて歯科医の検診やケアを受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。個別に排泄記録をとることで、体調管理を行っている。排泄の自立や心身の状況の維持・向上に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動、水分摂取等に配慮し自然排便ができるよう配慮し服薬に頼る事を最後にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って入浴できるようにしている。個々の状態に合わせて機械浴も利用している。	事業所では、2日に1回は入浴できるよう支援している。利用者の心身の状況に応じて、機械浴なども利用している。一人ひとりの希望にあわせてシャンプーや石けん等を使用するなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止に努め、日中はできるだけ活動できるように工夫している。健康状態に応じて日中も疲れたら少し横になる等柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師に相談し、個々の状態に合わせて服薬は最小限にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から生活歴や本人の楽しみにしていた事や輝いていた時の話を聞き出し、好きな会話や趣味が楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員で出かける事は少なくなっているが季節のお花見等には出かけている。職員で対応できない場合は家族にお願いして外出の希望を叶えてもらっている。	事業所では、敷地内の裏庭を散歩したり、近隣の公園へ出かけたりして、日常的な外出支援に取り組んでいる。季節ごとに、花見に出かけることもある。また、家族等の協力を得て、外出・外泊などの支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想のトラブルがある為、普段は管理者が保管し、買い物に行った時等必要な時に持ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話を所持している方もあり、不具合時や充電等の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、壁面飾りを職員と一緒に作って飾り付けたりしている。アロマも取り入れ居心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間には、大きな丸テーブルがあり、家庭的な雰囲気を感じることができる。柱や壁に、利用者と職員で花や葉っぱの飾り付けを行い、季節感も感じられる。テレビの前にソファを設置するなど、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに気の合った人とソファに座って話をしたり、戸外にもベンチを置き外気に触れて過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には家庭で使っていた馴染みの物を自由に持ち込み、住みやすいように配置も相談しながら工夫して行っている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や馴染みの品、家族の写真などを持ち込んでもらっている。転倒したりや物が落ちたりすることがないように、家具等の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、動線には手すりがついて安全に移動できるようになっている。部屋やトイレ等必要に応じて個々に合わせてわかりやすく表示している。		